

# 文教ガーデンシティ 市民説明会等質疑応答の概要

## 1. 全体構想について

質 問 ・ 意 見	回 答
市が進めるコンパクトタウン&ネットワーク構想とは。	全国的に人口減少が進む中で、伊豆市への定住を促進するための重要な施策として「まちの魅力の創出」があげられる。市ではこうした魅力創出のために、修善寺駅から半径1km以内の中心エリアに市役所や病院、学校、公園、商業施設などの都市機能を集積し、中伊豆、天城湯ヶ島、土肥地区と公共交通等ネットワークで結ぶ「コンパクトタウン&ネットワーク構想」を掲げている。また、中伊豆、天城湯ヶ島、土肥地区においては、それぞれの中心部に役所機能やコミュニティ機能、日常生活に必要な機能等を集約するとともに、交通結節点としての機能を持たせ、公共交通等により中心地とをネットワークで結び利便性や快適性を向上することを目指している。
事業目的は何か。	修善寺中学校・中伊豆中学校・天城中学校を統合し、新たな中学校の建設をインパクトとして、新しい市の核となる部分のまちづくりを行うもの。現在、市が抱える問題として、人口減少や少子化対策があるが、中学校、公園、こども園などを一体的に整備することで子育てや教育環境の充実を図り、住む場所としてのブランド力を向上し、移住定住を促進するというのが目的。
文教ガーデンシティの計画はいつ始まったのか。	平成26年2月、中学校生徒の減少による単クラス化やそれに伴う教科担任の不足、部活動の限定などの教育環境を改善するため、教育委員会は第2次学校再編計画を策定した。再編計画の中では、適正な規模の「中学校の教育環境の確保」が急務であり、中学校を先行して再編すること等が盛り込まれた。市では、第一次総合計画に位置付けられている幼児保育・教育環境の充実や市街地周辺の住環境整備、拠点公園の整備の実現に向け、中学校の再編に合わせた新たなまちづくりを検討した。人口減少が進む伊豆市において、子育て・教育環境の充実は最優先で取り組むべき施策であることから、中学校の新設を核にこども園や公園などを一体的に整備し、住むまちのブランドづくりを目指すこととした。
構想内に小学校がないのはなぜか。	第2次学校再編計画に基づき、土肥、中伊豆、天城湯ヶ島地区の小学校が再編された。修善寺地区の4小学校はH32年度新中学校開校後、現修善寺中学校の跡地を利用しH34年度の開校を目指し再編を計画している。また、伊豆市は年間200人の出生を目指しており、各地域で小学校運営が可能であり、小学生の体力的負担の軽減にもなる。
代替地を希望した場合、対応してもらえるか。	用地交渉の際には意向調査を行い、可能な限り対応させていただく。
整備にあたり、駅周辺の交通渋滞についてどう考えているか。	一昨年から県と共同で検討委員会を立ち上げ、検討を進めているところである。
防災拠点として活用する場合、市役所との間に狩野川が流れているが、遠藤橋が崩れる心配はないのか？	橋の耐震強度については、市内全ての調査を行っている。遠藤橋も含めて耐震補強が必要な橋梁については、随時対策していく。
文教ガーデンシティ周辺の道路整備計画はあるのか。	通学路の整備を中心に検討している。全ての道路に歩道を設置することは困難なので、既存道路の歩道部分への段差やカラーリングでの区別、通学時間帯の交通規制など、様々な対策方法を検討していく。また、市道小川遠藤橋線の加殿、田代地区の区間については、特に狭い区間から順次拡幅整備していく予定。

# 文教ガーデンシティ 市民説明会等質疑応答の概要

## 1. 全体構想について

質 問 ・ 意 見	回 答
この事業をやることによって子どもたちが本当に集まってくるのか。	良質な学校をつくり教育環境を充実させることにより、子育て世代の住民の流出を防ぎたい。また、ハード面だけでなく中身の充実も合わせて検討していきたい。
文教ガーデンシティを住みたいまちとしてのブランド化とあるがどういうことか。	市が抱える問題として子育て支援、人口減少対策があるが、中学校、公園、こども園などを一体的に整備することで、子育てしやすいまちとして、住む場所のブランドづくりを目指すというものである。
何のために文教ガーデンシティをやるのか。中学校が統合されることで、残された修善寺以外の地区の発展をどう考えるか。	中学校再編をインパクトとして、新しい市の核となる部分のまちづくりを行うものである。天城や中伊豆は、各地区に地域振興拠点を整備する計画で、実現するための各種事業についても検討していく。
新たに人を呼び込むのではなく、Uターン促進が優先ではないか。	転出した方も地元に対する思いはあると思うので、その方々にも伊豆市に住みたくなるブランドを作っていきたい。その一つが文教ガーデンシティである。
文教ガーデンシティの防災拠点機能とはどういうものか。	防災施設については、支援物資の受け入れや市内各所への中継拠点の役割、非常用備品や食料の備蓄倉庫の役割を兼ね備えた施設を検討している。また、中学校の第2グラウンドは、長期間避難しなければならない住民が出た場合の仮設住宅用地として利用することも検討していて、その際に仮設住宅の窓口として利用することも検討している。校舎についても広域避難所としての役割を想定していて、大規模地震の際にも耐えうるような避難所機能のための耐震化、また地震後のことも考え、通常の耐震基準よりも厳しい基準のもとで体育館を含めて整備していく予定である。
狩野川東側に新たな活断層が存在する可能性があると発表されたが、文教GCの用地は含まれているのか？	国の地震調査委員会が全国で約100の主要活断層帯を公表していて、伊豆半島では北伊豆断層帯だけが公表されている。新たな活断層については、その存在が確定したわけではなく位置についても不明である。なお、民間の研究機関で公開されている活断層データでは、文教GC付近に活断層は見当たらない。
活断層の調査や対策はしているか？	今年度、エリア内全域でボーリング調査を実施し、地質のズレがないか等、安全性について確認している。耐震強度については、建築基準法の規定より1.2倍強い静岡県 の指針が基本になるが、学校については避難所としての機能を想定しているため、更に構造耐力を強化した建築設計とする予定。
ヘリポートは造るのか。それともグラウンドを使うのか。	専用のヘリポートは造る予定はない。文教ガーデンシティに造ろうとしている防災拠点は現在自衛隊の進出拠点となっている修善寺グラウンドの代わりとなるもの。修善寺グラウンドは道路が狭くカーブが多いため非常に使いにくいので、しっかりと使うことのできる防災拠点を整備したい。

# 文教ガーデンシティ 市民説明会質疑応答記録

## 1. 全体構想について

質 問 ・ 意 見	回 答
<p>中学校の統合計画を知っているも、文教ガーデンシティ構想を知っている人は少ない。今回の説明会で出た意見を反映してスケジュール変更等する猶予はあるのか。</p>	<p>説明不足という意見が聞かれたため、旧町単位で説明会を開催している。今後は様々な媒体を使い広報活動をしていきたい。また、個別事業の計画に当たりワークショップ等を開催し、皆さんの意見を伺いながら、市民の皆さんと一緒に進めていく。</p>
<p>文教ガーデンシティについて、今までどのように市民に説明してきているのか。説明会への参加者が少なく、出席しない我々も悪いが、もう少し意見の言える場を作ってもらい、市民の意見をくみ取ってほしい。</p>	<p>意見交換の場は必要だと感じている。子育てや教育など市では様々な対策をしているが、上手く伝わっていないと感じている。伊豆市の最大の問題は出生数。文教ガーデンシティに集中させることによって、他の地域がどうなってもいいとは全く思っていない。同時並行的に各地区で地域振興策について具体的に話をさせていただきたい。皆さんの意見はもっとお伺いさせていただきたいと思う。</p>
<p>文教ガーデンシティについて、市民への説明が足りないのではないか。</p>	<p>市の政策について、子育てや教育など様々な対策をしているが、広報が行き届かず、広く市民の皆さんに伝わっていないと感じている。文教ガーデンシティの説明と同時に、各地区の地域振興策についても具体的な説明が必要である。市民の皆さんへの説明について、説明会の開催だけでなく、広報紙やホームページなど様々な媒体を使って周知活動を推進する。</p>

## 文教ガーデンシティ 市民説明会等質疑応答の概要

### 2. 農業調整・開発許可について

質 問 ・ 意 見	回 答
全体面積が12haとの事だが、4ha以上の農地転用は農林水産大臣許可となっているが、国との調整はどのように進めているのか。	農地転用の申請は個別具体計画での申請となる為、現在は中学校のみ調整している。中学校は4ha以下の為、県と調整している。
農振農用地は、農地転用を許可する事は出来ないとされているが、どのように進めるのか。	農振農用地除外手続きを行い、許可後に農地転用申請を行う。
全体構想を国と協議していないのに、どうやって用地交渉などをやるのか。	県と協議を続けており、まずは中学校についての用地交渉の準備や、県と個別事業として除外申請の調整を進める。公園やこども園についても、段階的に手続きなどを進めていく。用地交渉についても調整できた個別事業ごとに正式な交渉へと入っていく予定である。
説明会を開催するのであれば、方針や開発スケジュール等が決定してから行うべきではないか。	方針決定の前に経過報告をしてほしい、意見を聞いてほしいという要望も多い。今回の説明会についても市民への経過報告の場であり、市民の意見を伺う場でもある。
開発手法は区画整理事業か。それとも、市が地権者から土地を購入するのか。	区画整理事業ではない。市が用地を購入し事業を行う予定である。

## 文教ガーデンシティ 市民説明会等質疑応答の概要

### 3. 財政シミュレーションについて

質 問 ・ 意 見	回 答
<p>合併特例債とよく言うが、その借金の返済のための市民負担も心配である。</p>	<p>財政については、10年、20年くらいは見通しはつく。3中学校を残す場合と、国から補助金をもらって1つ新しい中学校を建てるのとで、市民の負担が少ないのはどちらかと言えば、当然1つの新しい中学校を建てること。現修善寺中学校を使うとなると、グラウンドを造らなければいけない、道路改良をしなければいけない、校舎も増築しなければいけないとなると、はるかにお金がかかる。それらを踏まえ、市として子供がもっとも良い環境で勉強ができて、市民の負担が最も少ないものを提案している。</p>
<p>文教ガーデンシティ事業は財政的に大きな事業であるが、これにより他のインフラ整備や既存施設維持に対する計画に影響を及ぼさないか。</p>	<p>行財政の運営は、限られた財源を使って如何に良いまちをつくっていくかに尽きる。きれい事ではなく、市民の皆様にも引き続き行政改革にご協力をいただきたい。 例えば、今後の公共施設の統廃合や、河川清掃・道路清掃は市民の皆様にもお手伝いいただきたい。市民の皆様にもお願い出来ることは、恐縮ですがご協力をお願いしたい。 その上で、将来の事業費をしっかりと確保したいと考えている。</p>
<p>文教ガーデンシティの事業に多額の予算をつぎ込んで、財政的に大丈夫か。</p>	<p>市には財政調整基金（市の重要な事業や特別な支出を伴う場合、年度間の一時的な財政不足を補うために使う積立金）が約53億円（H28年度末現在）あり、これは将来のまちづくりのために蓄えてきた貯金でもあり、文教ガーデンシティ事業ではこの財政調整基金を使いながら、加えて財政をしっかりとチェックしながら実施していくので、財政破綻の危険はない。</p>
<p>修善寺駅前開発に20数億円の投資をしたが具体的な成果がでていないのではないか。</p>	<p>修善寺駅舎の完成がゴールではなくスタートである。駅北の再開発や商店街の活性化、それに併せて文教ガーデンシティという事業がその延長線上にある。従って修善寺駅事業はスタートであり、文教ガーデンシティ事業へ繋がるものとする。</p>
<p>財政が厳しくなると、市の補助金交付団体への補助金は削られていくのか。</p>	<p>文教ガーデンシティが始まるから補助金が削られるということではなく、これまでも補助金の適正化については予算の中で検討している。行財政改革の中で調整していく。</p>

# 文教ガーデンシティ 市民説明会等質疑応答の概要

## 4. 新中学校の整備について

質 問 ・ 意 見	回 答
新中学校計画の特徴は何なのか。	<p>新中学校の校舎については、先進的な教育環境を目指して「教科型教室」という形態を導入する予定。理科室や技術室、音楽室と同じように、英語や国語、数学、社会にも教科用の教室を設置する計画。また、これまでと同様に学級活動が行えるように、ホームルーム用の部屋もクラスごとに整備する予定。その他、電子黒板、タブレットの導入などICTの技術も積極的に取り入れる予定。グラウンドについては、2箇所に分けて配置する。第一グラウンドは体育等の授業がメインとなり、放課後は野球、ソフトボール、陸上などの部活動で利用する予定。第2グラウンドについては、部活動のみの利用を想定していて、サッカー部、テニス部などが利用する予定。また、第2グラウンドについては、社会体育施設としての利用や有事の際の防災用施設としての活用も見込んでいる。</p>
グラウンドが2つあるが、その理由と管理方法は。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文教ガーデンシティとして公園、こども園、住宅地との全体バランスへの配慮と、イエローゾーンを避けたことにより2箇所に配置した。</li> <li>・第2グラウンドは部活動での使用が主となるため、空き時間を社会体育事業等で開放する予定である。</li> <li>・災害時の防災拠点としての施設の設置や活動拠点としての活用も考えている。</li> <li>・両グラウンドとも中学校が管理する。</li> </ul>
第2グラウンドへ移動する際の安全性の確保はどうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・警察との協議や有識者などからご意見を頂き、安全に移動できる方法を検討していく。</li> <li>・歩道橋等を設置するのは困難なので、横断歩道の設置を検討している。</li> <li>・自動車で通行する方に、中学生が渡るエリアであることを周知徹底することで安全確保に努める。</li> </ul>
通学路の整備について、どう考えているか。	<p>全ての道路に歩道を整備することは困難だが、歩道部分に段差を設けたり、カラーリングで区別するなど、様々な対策方法を検討している。</p>
下校時の防犯対策について、どう考えているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視認性を生かした道路の配置と、街路灯や防犯灯の適正配置等を検討していく。</li> <li>・登下校時のバスの利用方法や乗車方法、通学路の防犯対策については、関係する会社や機関と検討している。</li> </ul>
新中学校の場所が狩野川に接していて危険性はないのか。	<p>防災については、県が出している危険箇所やハザードマップなどの資料を基に安全な計画づくりを進めている。特に地震については、避難所にも対応することになっているので、県が定める基準よりさらに高い耐震基準を満たした校舎建設についての計画を進めている。</p>
中学校だけを整備してもらうことはできないか。その他の計画は再検討できないか。	<p>中学校再編をインパクトとして人口減少など市全体の課題への対応と住むまちのブランドづくりをしたいというのが文教ガーデンシティの目的である。そういう意味では中学校に加えて子育てや交流の拠点となるような公園やこども園などを合わせて整備していきたいと考えている。</p>

## 文教ガーデンシティ 市民説明会等質疑応答の概要

### 4. 新中学校の整備について

質 問 ・ 意 見	回 答
中学校の施設概要や運営について、もっと市民へ周知すべきではないか。	P T A役員などにも説明をしており、今後は学校単位での説明会も開催していく予定。
非常に風の強い地域だが、周辺住民に対する風対策はどうするのか。	飛ばない土の使用、防砂用の木の植栽、防砂ネットの設置、スプリンクラーの整備を複合的に整備し、砂が周辺に出ない様、整備を行う。
バス通学に対する対応はどうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バスの便数やルートについてはバス事業者や関係機関とともに検討を進めている。</li> <li>・バス通学に対する補助金制度も継続して実施していきたいと考えている。</li> </ul>
教科教室型とはどのようなものか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームルームから教科ごとに設置された専門教室に移動して授業を行う形式。</li> <li>・学力向上や生徒の自主性が育まれることが期待できる。</li> </ul>
新中学校について、教科教室型にする意味は何か、また、ホームルーム（学活や道徳の活動）はどこでやるのか？広さについてはどうなのか。	教科型教室にすることで、生徒が意欲的に学習し、学力を伸ばす、主体的に自主性を持って学ぶことを目標にしている。ホームルームの活用方法は、朝の会から給食、道徳、学級活動、総合的な学習等の活動はホームルームで行うことを考えている。広さは、普通教室の3分の2程度を考えている。
すべての教科別教室にパソコンは設置するのか。	現在はすべての教室にパソコンを置くという事は考えていないが、ジェクターや電子黒板、タブレット等を用いた授業は必須になってくるのではないかと考えている。
プールについて前向きな検討をしてもらうことはできないか。	中学校の体育の授業における水泳は、選択制であるため、現在はやらない方向で考えている。部活動については現在もそうだが、市営プールなどで行っている民間のスイミングスクールなどで行っていただき、大会には中学校名で参加しているので、その形態を続けていきたいと考えている。
第一グラウンド内の野球場とソフトボール場が併設しているが可能なのか。	日常の部活動の際には話合いや運用の中で使用することとなる。正式な試合は同時に行うことはできないが、双方で協議しながら使用することになる。
土肥は小中一貫校とするが、部活についての考え方はどう考えているのか。	現在検討中だが、新中学校との連携を考えている。具体的には、平日は土肥で部活動を行い、土日は新中学校と1つのチームを作りやっていくということで、現在の土肥中になかった部活動についても、やれるようになればと考えている。また、部活動の種類を増やし、個人種目などについても検討していく。
現在の旧3町の中学生の人数を教えてください。	平成28年度で修善寺中学校が356名、天城中学校が125名、中伊豆中学校が178名、合わせて659名。なお、平成32年には約100名減ることが想定されている。
中学校の人数のシミュレーションはしてあるか。	平成32年時点で566名の生徒数を予想している。規模としては、1クラス35人で18クラスを想定している。

## 文教ガーデンシティ 市民説明会等質疑応答の概要

### 4. 新中学校の整備について

質 問 ・ 意 見	回 答
3つの学校が統合した際の、教員への負担や環境の変化による生徒へのケアを考えておく必要があるのではないか。	学校のソフト面については、これから検討していく部分が多いため、いただいたご意見を参考にしながら、さらに充実した学校に向けた取り組みを進めていきたい。
教科教室についてですが、どんな効果があるのか具体的なところを教えてください。	技術室や音楽室と同じように、英語や国語、数学にも先生方が工夫をして指導力を発揮できるのが教科教室である。当然教室数も増え、移動に多少時間は掛かるが、校舎を2階建てとし、子どもたちの負担にならないよう配慮していく。
焼却場が佐野にできるが、環境の問題で子どもたちに影響がないか心配である。	現在計画している佐野の焼却場については、環境への影響はないと考えている。
通学に関しスクールバスを運行が必要だと考えるが計画はあるのか。	東海バス、伊豆箱根バスと協議中である、現在、時間帯を検証中であり、スクールバスも検討しているが現時点では路線バスが基本と考えている。



## 文教ガーデンシティ 市民説明会等質疑応答の概要

### 5. 住宅地について

質 問 ・ 意 見	回 答
住宅地の区画数と大きさはどの程度か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体で2ha程度を予定。</li> <li>・区画数及び面積は検討中だが、概ね50～100区画を想定している。</li> </ul>
住宅地エリアをもっと広げるほうが良いのではないか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体バランス等を考え、適当な大きさを検討していく。</li> <li>・文教エリアの発展に伴い、波及効果で周辺に拡大していくことを期待している。</li> </ul>
将来、高齢者が大半を占めるような住宅地にならないための対策はあるか。	次世代が帰ってきたいと思えるようなまちづくりを進めるとともに、定期借地権付き分譲や分譲条件などを検討し、土地の流動化を図っていく。
住宅地分譲の事業主体はどこか。	当構想の趣旨を理解し、賛同する民間事業者の参入や活用も視野に入れた検討を進めている。
住宅地の軒数の想定とグラウンドのほこり対策はどうする予定か。	区画数は概ね50～100と未定だが緑豊かな住宅地を整備する。ほこり対策は、表層部に加工をして飛ばない土を置くこと、また、防砂用の植栽や、防砂ネットを設置等の考えている。
住宅地は市が購入し販売するのか。	用地を市で取得するが、販売手法等については現在検討中である。
住宅地に住む人の想定は。	人口減少対策という狙いがあるので、市外から特に子育て世代の方に来てもらいたい。また、結婚等を機に近隣市町へ転出される方の流出を防ぐという目的もある。
構想内の住宅地は病院用地に変更になったのか。	病院用地として検討している段階であり、確定したものではない。現在は、住宅地と病院を並行して検討している。
中伊豆地区に温泉病院を残すよう検討してあげるべきではないか。	病院側も現在地に残す検討をしたが、同じ場所に建設するのは巨額の経費がかかること、土砂災害のリスクがあることなどから、事実上現在の位置での建て替えは不可能に近いという結論だったと聞いている。
温泉病院は今の場所で長年やってきて、近隣病院に影響があってはいけないと思う。	現状、伊豆市と伊豆の国市は2次救急を順天堂に依存している。中伊豆温泉病院が移転したからといって、そのすべてに対応できるとは思えない。伊豆赤十字病院と中伊豆温泉病院と伊豆医療センターで連携したかたちをとっていただきたい。

## 文教ガーデンシティ 市民説明会等質疑応答の概要

### 6. 公園について

質問・意見	回答
今まで近隣市町の公園に遊びに行っていたので、市内に公園ができるのは大歓迎である。	皆さんからご意見を頂き、より良い公園と一緒に創っていきたいと考えている。
子どもだけではなく、高齢者も気軽に利用できるような公園づくりを進めてもらいたい。	具体的な公園の設計を進めていく中で、多くの方に受け入れられ、多世代が交流できる公園づくりを考えていきたい。

## 文教ガーデンシティ 市民説明会等質疑応答の概要

### 7. 土肥、天城湯ヶ島、中伊豆地区の振興策について

質問・意見	回答
修善寺地区以外の地域振興をどのように進めていくのか。	昨年度ワークショップ等で地域振興のあり方について意見をいただいた。今年度、引き続いてワークショップ等を開催し意見を聞き、どのように運営するとか、モデル事業を実施するとか、計画の方向性をより具体的に進めていきたい。
地域振興拠点整備の考え方を聞きたい。	地方創生の流れで今後5年間の人口減少に対応するための取り組み方針を定めた。その中で、天城・中伊豆・土肥それぞれの地域で拠点整備をする目標を掲げている。具体的には、再編する公共施設を活用し、地域コミュニティや交通結節点として整備する計画である。
修善寺以外の地域で小さなワンコインのバスの運用が必要だと思うがどうか。	デマンドバスやコミュニティーバスなどを含め、新たな公共交通形態の検討を進めている。また、バスの利用促進を図るため、まちづくりと一体となった公共交通のあり方についても現在検討している。
中心市街地周辺だけが良くなるのでは、周りの地域は一気に寂れてしまう。地域を活性化するのは、決して一極集中で何かをするということでは無いと思う。地域を活性化するというのをどう考えているか。	伊豆市は近隣市町に比べて産業の状況は悪くないが、出生数は減少が続いている。人口減少対策について、今までの延長線上でやっていっても、地域の活力を維持することは困難である。なんとしても、出生数の下げ止まりと定住促進を図らなければならない。その点の共通認識を大前提として地域政策をしっかりと行っていきたい。